

将来構想検討会の学外委員からの御意見に対する取組状況

(第1回 (R2.3.2) ~第5回 (R3.12.15))

学外委員からのご意見	現在の取組(対応)状況
<p>【国立大学改革方針への対応(第1回)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方創生は、大分県にとって大きな課題であり、大分県では①人づくり、②産業づくり、③地域づくり、④発展の基盤を整えるという4つの体系で、当該課題に取り組んでいる。それらを踏まえ、地方創生に寄与することを打ち出して欲しい。【第1回】 ○ 大分大学は、大分県をはじめ県内の各市町村と包括連携協定を締結している。今後その協定を具体化させるといった趣旨で、インテリジェンス・ハブ化を位置付けてはどうか。【第1回】 ○ インテリジェンス・ハブ化を進める学内の戦略・企画部門を置いたほうが良い。また、地域連携プラットフォームの事務局を大分大学が担い、主導権をもって取り組んで欲しい。【第1回】 ○ リカレント教育は非常に大切だと考える。学びたいときに学べずとも、就職して必要性を感じて学ぶことができる。18歳時に進学できなかった者も、大学で学ぶチャンスがあることをしっかり広報して欲しい。【第1回】 ○ 全国において認知度を上げる必要があると考える。スペシャリストを養成する大分大学の「とがったところ」は、日本一を目指して欲しい。さらに、各学部の中に、「とがったところ」が欲しい。教養があり人格者であるジェネラリストを育てることも大事であるが、大分大学の「とがったところ」を、是非伸ばして欲しい。【第1回】 	<p>将来構想検討会でいただいた意見を踏まえ、国立大学改革方針への対応として、「大分大学の将来構想と今後の取組について」を作成し、令和2年3月12日に文部科学省と対話を実施した。</p> <p>現在、当該構想の実現に向けて、令和4年1月に策定した大分大学ビジョン2040をもとに、教育研究組織の改組等に取り組んでいる。</p>
<p>【医学部の新学科設置構想(第2回,第3回,第5回)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉健康科学部の中に設置するよりも、医学部に設置したほうが良い。しかし、一般的に、学生が見たときに、名称も似ているため、わかりやすくしたほうが良い。また、「医療経済学コース」も経済学部ではなくて、医学部に設置するというのは特色があって良い。【第2回】 ○ 「生命健康科学コース」と「臨床医工学コース」はイメージしやすい。ただし、「医療経済学コース」は、学生にどのように勧めていいか、なかなかイメージがしにくい。医療政策として、行政を目指す子どもにも勧めると良い。【第2回】 ○ 「長寿健康科学科」というのは、若い人たちに対しては、ネーミングがなじまないかもしれない。福祉健康科学部との色分けを考えると、医学部の中にあるということがわかるような名称にしたほうが良い。【第2回】 ○ 「メディカル・イノベーション学科」は受験生にとって分かりにくいかもしれない。医療・医学の分野でイノベーションは進んでいくが、患者側も病気になる前の予防という観点での医療という考え方も出てくる。患者のニーズは、若く、健康に年を重ねていきたいというニーズになってくる。学科名称にイノベーションを入れなくても理念等に入れていけば良い。【第3回】 ○ 医療マネジメントについては、医療従事者が学ぶことは非常に良いことだと思う。今後、新学科だけでなく、医学科や看護学科にも広げていただきたい。【第5回】 	<p>将来構想検討会でいただいた意見を踏まえ、先進医療科学科(仮称)として、令和5年4月設置に向けて準備を進めており、令和4年3月に文部科学省に設置申請を行った。なお、医療マネジメントは今回コースとしての新設こそとりやめたが、新学科の中で融合人材を育成する上での特徴としており、将来的には医学部の他の学科への学修の拡大や、大学院のプログラムとすることなども視野に検討している。</p>
<p>【大分大学ビジョン2040(仮称)及び第4期中期目標・中期計画(第3回,第4回)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大分大学のビジョンはこれというものを作成していただきたい。【第3回】 ○ 経営戦略の中でCI(コーポレートアイデンティティ)戦略と言われるような、大分大学のイメージアップ戦略を行うと良い。【第3回】 ○ 人口減少で、国立大学においても統廃合等大変だと思う。内視鏡など大分大学の強みをもっと宣伝したほうが良い。【第3回】 ○ ビジョン2040というのは、長期的なビジョンとなるため目標設定は大変だと思う。今後の世の中の動きについて予想がつかないため、コアとなるところはしっかりと決めて、その他の部分は柔軟に対応するようにしたほうが良い。また、ビジョン2015の総括をしっかりと行い、どのくらい達成できたか検証することが必要。【第3回】 ○ ビジョン2015から2040に移行する際の、環境の変化や時代の流れ、課題などを明らかにして、作成したほうが良い。大分県では長期総合計画を見直す際に、3つの課題(人口減少の中での地方創生、AI等の高度技術の取り入れ方、頻発する自然災害に対する強靱化)を明らかにしている。大分大学もそうした課題を明記したほうが良い。【第3回】 ○ 2040年に向けて実施することが記載されているが、どのような時系列で進めていくかについてのマイルストーンを記載したほうが良いのではないと思う。【第4回】 ○ 全国で学生のスタートアップ(起業)の取組が進んでいるが、ビジョン2040には、スタートアップの記載がないように思う。【第4回】 	<p>長期戦略等策定会議において、ビジョン2015の検証を行い、ビジョン2040を令和4年1月に策定した。</p> <p>現在、将来構想検討会でいただいた意見を踏まえ、第4期中期計画のアクションプラン及びビジョン実現に向けたロードマップを学内で作成している。今後、ビジョン2040に沿って、「次世代につなぐ、そして未来を創る」大学として、改革を進めていく。</p>